

interview

Y
さん製造G
線ばね一班

女性初の段取り調整担当者として、複雑なフォーミングマシンを扱うようになったのは、上司からの「やってみない？」という一言がきっかけだった。2009年（平成21年）の新卒入社以来、3人の子育てと仕事を両立しながら、どのように立ちはだかる壁を乗り越えてきたのか。その向上心の源泉と、未来への思いを紐解いていく。

新たなステージへの第一歩を踏み出す

転職が訪れたのは、今から約2年前。それまで10年以上にわたり、製品の検査や手直しといった後工程を担当してきたが、上司から「やってみない？」と新たな役割を打診されたのだ。それは、フォーミングマシンの段取り調整という業務だった。前任者が

辞めたタイミングでの突然の申し出に、最初は心が揺らいだ。

「難しい仕事だと聞いていたので、『自分ができるのか』という不安がありました。ただ、もともとお願いされたら『やってみようかな』と思う性格なので、あまり深く考え込まずに挑戦してみようと思った。

難易度の高い機械と向き合い続けた1年間

しかし、いざ飛び込んでみると、その業務は想像を遥かに超えるほど複雑だった。担当するのは、同じ製品を製造する9台のフォーミングマシン。製品の品質を保つために、悪くなりそうな箇所を画像で確認してから、直すための数値を機械に入力し、「歪

み」を手で修正していく。特に、この歪み調整の難しさには大いに悩まされた。調整箇所は約30か所にも及び、数値を入力してもその通りにならなかったり、突然、製品の形が変わってしまったりと、試行錯誤の日々が続いた。

どこをどう直せばいいのかわからなくても、修正箇所を探りながら作業を進めていくしかなかった。1人で満足のいく調整ができるようになるまで、約1年はかかったという。

「いつかはできる」と思わせてくれた 温かい言葉

先の見えない不安の中で、心を支えてくれたのは周りの仲間たちの存在だ。特に、当時の上司だった係長のサポートは大きかった。わからないことは、どれほど些細な内容でも、聞くたびに丁寧に教えてくれた。

そして何より、悩んでいる自分にかけてくれた「最初の1～2年は、皆悩むものだから」という言葉が、気持ちを軽くしてくれたのだ。自分より年下の社員たちも乗り越えてきた道だから、いつかは自分もできるようになるはず。そう信じて、ひたむきに機械と向き合い続けた。

何事も「なるようにしかならない」

「私は、昔からあまり深く考えないタイプです。嫌な出来事があっても寝たら忘れるので、マイナスな気持ちは引きずりません。

その考え方は、3人の子育てと仕事の両立においても発揮されている。小学校から中学校まで、育ち盛りのお子様たちとの毎日は慌ただしい。それでも「なるようにしかならない」と、日々のルーティンを大切にしながら、皆で楽しく過ごしている。

また、子どもたちが自然と家事を手伝ってくれる

ことや、急な休みにも対応してくれる職場の理解もありがたい。だからこそ、さらに頑張ろうという気持ちになれるのだ。

スキルアップと子どもたちの 未来のために

段取り調整という大きな壁を乗り越えた経験は、自分をさらに成長させてくれたと感じている。

「何でも実際にやらなければ、わからないことばかりです。それなら、やらないよりはやった方がいいですね。それに、挑戦することは自分のためになりますから。」

その言葉通り、最近では会社の勧めでフォークリフトの免許を取得。今では、自ら材料運搬を行い、着実に業務の幅を広げている。

そして今、上司からの勧めがきっかけで、「金属ばね製造技能士2級」の資格取得という新たな目標を見据えている。自らを突き動かす原動力は、知見を広げてレベルアップしたいという向上心と、「子どもたちに、やりたいことをやらせてあげたい」という親心。愛する家族の笑顔のために、挑戦の日々は続いていく。

未知の分野へひたむきに挑むその姿勢は、私たちに一歩を踏み出すことの大切さを教えてくれる。この挑戦によって培われた貴重な経験が、名実兼備に新たな風を吹き込んでくれるに違いない。

